

学生の感性を生かした、郊外暮らしの提案発表 ～第2回はまっこ郊外暮らし検討会～

横浜市立大学では、「第2回はまっこ郊外暮らし検討会^{※1}」として、学生による新たな郊外暮らしの提案発表会を7月26日(金)に実施します。

第1回検討会では、横浜市大教員及び京浜急行電鉄株式会社をはじめとした検討会メンバー^{※2}の産官学関係者等約30名と共に、横浜市の郊外エリアの視察を行い、緑の多さや街区構成等を確認、さらに郊外での暮らし方について、将来を見据え、多世代居住や都心部にはない郊外の特性や魅力を生かした取組を進める必要性などを議論しました。

第2回検討会では、今の若者が考える郊外の暮らし方について、本学の学生が必修授業科目「まちづくり実習Ⅱ」^{※3}(担当教授：齊藤広子^{※4})においてまとめた提案を発表します。

学生は横浜市金沢区や地域の協力を得て、空き家の現地調査から始め、周辺の施設や交通の便、地域の取組を学びながら、新たな郊外暮らしの提案に必要なデータを収集しました。その調査結果や、本検討会委員による講義から学んだことを踏まえ、空き家の利活用とリタイアメント世代を含めたコミュニティビジネスによるまちの魅力向上なども視野に入れた、新たな郊外暮らしを提案します。

今回の学生からの提案もふまえ、はまっこ郊外暮らし検討会では、都心部にはない郊外の豊かな緑や育児に適した居住環境といった強みに加え、若者世代が求める現代的な暮らし方を実現する方策を考えていきます。

概要

日時：令和元年7月26日(金)15時00分～17時40分頃(予定)

実施場所：横浜市立大学 金沢八景キャンパス YCUスクエア 201
横浜市金沢区瀬戸 22-2

参加者：本学の学生45名によるプレゼンテーション

内容：“郊外”をキーワードに、学生が新たな暮らし方を提案

※検討会メンバー、学生及び関係者の方のみの参加となります。
一般参加の受付はございません。



第1回検討会の様子(5月8日実施)

参考

※1 はまっこ郊外暮らし検討会

横浜市立大学と京浜急行電鉄株式会社、横浜市、産官学連携で横浜“郊外”の魅力を活かした新たなライフスタイルについて、空き家等を使って実現する方策を模索するため立ち上げた検討会。検討会は年6回の開催を予定。横浜市立大学でまちづくりを学ぶ本学の学生も検討会に実習授業の一環として関わる。

※2 検討会メンバー

学：＜有識者＞三浦展（株式会社カルチャースタディーズ研究所）、池本洋一（株式会社リクルート住まいカンパニー）、大島芳彦（株式会社ブルースタジオ）、吉里裕也（R不動産株式会社）
＜横浜市立大学教員＞齊藤広子、鈴木伸治、三輪律江、中西正彦
産：京浜急行電鉄株式会社
官：（オブザーバー）横浜市都市整備局、横浜市金沢区

※3 必修授業科目（実習授業科目「まちづくり実習Ⅱ」）

国際総合科学部国際都市学系まちづくりコース3年前期の必修科目。6～7月の課題は「郊外の新たな暮らし・まち・ビジネスのあり方を考える！！-空き家の利活用とコミュニティビジネス-」という課題で、魅力あるまち・すまいの実現のため、正確なデータ分析による理論的思考に基づいたプラン作り、市場分析（マーケットリサーチ）、リノベーションプラン作成、プランのプレゼンテーション、収支計算など、実践的・総合的な実習を行い、空き家利活用の具体的な提案を行う。

＜授業の様子＞



NPO 法人 atamista 代表理事・市来広一郎氏（特別ゲスト）の講義



SUUMO 編集長（株式会社リクルート住まいカンパニー）・池本氏（検討会メンバー）の講義



株式会社ブルースタジオ専務取締役・大島氏（検討会メンバー）の講義

※4 齊藤 広子 プロフィール

横浜市立大学、国際教養学部国際教養学科都市学系教授。副国際教養学部長兼国際総合科学部まちづくりコース長、地域政策コース長。博士（学術）・博士（工学）・博士（不動産学）。

筑波大学第三学群社会工学類都市計画専攻卒業。不動産会社勤務を経て、大阪市立大学大学院生活科学研究科修了。英国ケンブリッジ大学研究員、明海大学不動産学部教授を経て、2015年より現職。国土交通省社会資本審議会・神奈川県住宅政策審議会等の委員、空き家等対策計画の作成のための横浜市空き家等対策協議会（座長）他、多数の委員を務めている。